

明けましておめでとうございます。

昨年12月は寒暖の差が大きく、かつ全体に暖い冬の様相でした。昨年も色々なことがありましたね。スポーツの世界において、若い力が世界水準になってきた。ゴルフの渋子、野球の大谷、テニスのなおみ、バスケの八村、バトミントンの桃田等々おられますが、ワンチームの言葉が一世を風靡しましたラグビーを抜きには語れないでしょう。俄かファンが大勢出来て、高校ラグビーも大いに盛り上がっています。また、大学ラグビーも同様ですが、世界のレベルを見せてくれる社会人ラグビー トップリーグが1月12日には開幕します。4年後のパリ世界大会は今回以上の成績を残さなければなりません。プレッシャーと期待が交錯しています。

東京オリンピックが7月に開催されます。こちらの方もメダル候補がたくさん出てきていますので楽しみです。スポーツに関しては期待の星がたくさん出てきています。今までは体力において世界に通用する日本人は少なかったけれどもハーフの子供らが育ってくれて、体力を付けてきたので対等に戦えるまでになった。ラグビーは外国の人の存在が大きかったと思う。

一方、世界の情勢はどうでしょうか？米中貿易問題、北朝鮮問題、中東イスラエル問題、英国のEUブレグジット ここ数年来の懸案事項がいっぱい存在しており、どこから手を付けたら良いのか？トップリーダーにもわからない。目先の問題だけで精一杯だ。新自由主義のグローバル化が推し進められてきたが、近頃はトランプに代表される自国第一主義の保護主義化している。日本は相変わらずアメリカの言いなりで、アメリカ様のおっしゃる通りですと政府は27日の閣議で中東を航行する船舶の安全確保をめざし自衛隊を周辺海域に派遣することを決めた。防衛省設置法に基づく「調査・研究」目的で、海上自衛隊の護衛艦は2020年2月から、哨戒機は1月から活動するとなっている。アメリカから独立をしていないのかな？自衛隊の活動は今月にも本格化する米トランプ政権主導の有志連合「番人(センチネル)作戦」に歩調を合わせる狙いがある。米国の中東での活動を警戒するイランなどに配慮し、有志連合への参加は見送り、独自派遣の形をとっているが、アメリカに気を使ったのでは？アメリカとは情報交換で綿密に連携するでしょう。

消費税の増税が少なからず景気に悪影響を及ぼしております。12月13日に発表になった日銀短観を見ていても、非製造業はいまだにそこそこの調子を保っているものの、製造業は結構厳しい状況です。大企業の製造業の景況感「良い」と「悪い」のちょうど境目あたりまで落ちています。中小企業は「悪い」状況が続いています。景気を肌で感じるタクシーの運転手さんやホテルのフロントマンなどを調査対象とする「街角景気」も2018年初めから「悪い」と答える人たちの割合が「良い」と答える人を上回り、最近では「悪い」の比率が上がっています。日銀の金融政策はマイナス金利で何もできません。アベノミクスは8年たつのにいまだ目標の2%の物価上昇が出来ていません。お金をジャブジャブにしたまでは株価上昇で良かったが、財政出動は13年の一回限りで、連続して財政出動をしないので、3本目の矢の民間主導の景気回復までに至りません。誰でもわかる嘘を言う安倍首相はもうそろそろ変わらないといけない時期に来たのかな？